

漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	材料及び諸係数（鋼材、コンクリート）
相談タイトル	経年劣化および風浪による堤防の浸食の補修工事について
相談者	福岡県福岡市
相談内容（Web 会議）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成から数十年が経過した防波堤（施工年次不明だが 50 年以上は経過していると思われる）において、経年による劣化及び風浪等で堤防下部のコンクリートが浸食を受けている。【高さ 50cm, 奥行 30cm, 延長 20m 程度】 このような場合の補修方法として、浸食を受けていない上部構造の面に合わせて復旧するのか、または施工性を考慮して上部構造の面より 50cm 程度前までコンクリート壁を継ぎ足して良いのか、確認したい。
相談会（Web 会議）の結果（R03. 8. 23）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補修方法を検討する前に、劣化状況についてしっかり把握する必要がある。表面の目視だけでなく、矢板の腐食や中詰砂の残存状況等、元々の構造の安定について検査する。 ・ 二重矢板区間の検査方法について矢板の残存厚は超音波センサー等で計測する方法がある。中詰め状況の検査は上部コンクリートのコア抜きだろう。そのうえで矢板や中詰めの現状を踏まえて設計波及び地震に対する施設の安定性を確認し、必要に応じて対策を講じる必要がある。 ・ 石積み+コンクリート区間の捨て石の流出について、経年劣化で石は動かない。このため、波浪状況が変わった可能性がある。設計波に応じた石の安定について、堤体の設計と併せて確認する必要がある（石材の大きさなどは現地調査が必要）。 ・ 当時の施工状況を考慮すると、骨材の粗さ（大粒径の石が混入）も考えられる。立地から波・流れが強くないとすれば、他に地震の影響も考えられる。過去の資料を確認すると良い。 ・ 沿岸漂砂により構造物前面にあった砂が流出し、構造物基部がむき出しとなり、そこに吸い出し、洗掘を受けた可能性もある。
相談会（Web 会議）後の検討状況	